

耳公民館だより



第76号 令和7年12月



東山の池田さんの見事な折り紙作品です。どれも一枚の紙を切らずに折り込んで作ってあるとお聞きすると、あらためてまじまじと見てしまいます。今年は熊の話題が注目を集めましたが、馬は人々の暮らしを支えてきた動物で、幸せを呼ぶ縁起物と言われます。いい年であってほしいですね。公民館ろうかに展示していますのでご覧ください。

(来年の干支「午」：池田義治氏)

公民館講座 出張します

これまでの公民館講座、立ち寄り型講座の成果をもとに、受け身から一步踏み出して、各集落や団体・グループのご要望に応じて「出前型講座」を始めます。お気軽にご相談ください。(下の記事は一例です。)

かんたん工作

(和紙のランタン)



(カプセルだるま)



ニュースポーツ

(上野区のボッチャ)



写真の鑑賞会

(耳地区の風景)



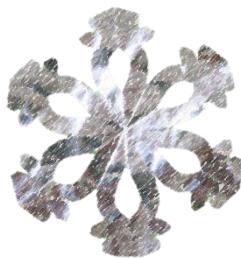
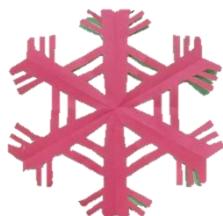
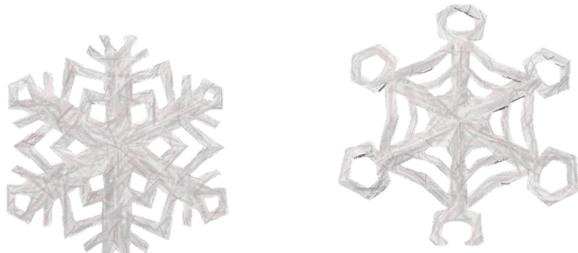
(インクの花)



(弥美神社拝殿の建築写真)

立ち寄り型講座「ふうっと」ニュース

⑧ 開くと楽しい切り紙 「雪の結晶」



もちろん、出前もいたします！

12折りにした色紙に
切り込みを入れて開くと
すてきな結晶形に。



館長のつぶやき

六角形

雪の結晶は実に美しいものです。自然にできたのに拡大してみると六角形が基本のパターンになつてているのが不思議です。水の分子が集合するのに最も安定した形が六角ということが、ほかにも自然界にはハチの巣や昆虫の複眼のように六角形のものが多く見られます。効率的に安定した構造というのですが、誰かが設計したわけでもないのです。

この特徴は人間の暮らしにもしっかりと応用されています。

サッカーゴールネットの網目は四角よりも六角の方が斜めにも伸びるので、ゴールの瞬間ボールを長くとらえていい感じの演出になります。

鉛筆の代表形も六角です。三本の指で持ちやすく、転げ落ちにくく折れにくい、製造するときに無駄が少ないなど、かなりの利点があるようです。最近はパソコンやシャープペンを使うことが多い生活様式ですが、鉛筆を握つてみるとあらためて感じことがあるかと思います。

雪の結晶の場合はさらに、六角形をベースとしながらもまわりに水蒸気がくつづいて色々な形に成長していくため、自然の造形美というか芸術的なものが生まれていくわけです。「まわりからくつづいてくる」というのは公民館のイメージからも目指すところですね。

六角形は「亀は万年」の亀の甲羅に似ているので長寿の象徴としても親しみやすいといいます。耳公民館も独立してまだ十年足らずです。万年とまではいかなくとも、長くあり続けたいものです。